

「興味と行動力があればかなりのことができる」 その力をどこに向けるか？

技術士一次試験の基礎科目には科学・工学分野の出題が広く出される。化学の出題もある。多くの受験生は化学の問題を避けて通る。受験生に聞いて見ると、驚くほど多くの割合で高校時代に化学を選択しなかったとの答えが返ってくる。化学とは、難しい学科との位置づけのようである。

その化学に情熱を傾け、ある領域において十分な知識とスキルを取得した、との新聞記事のニュースである。ただし、記事ではそのスキルについての判断はなされていない。目指した方向が間違っているとの非難を受けている。問題の青年は、方向さえ間違っていなければ素晴らしい化学の研究者になれる素養があると感じる。工夫力もあったことだろう。最近は大学の化学科を卒業した学生でも、自ら考え自ら行動できる者は少ない。これを思うと記事の内容はまことに残念である。

どの分野でも良いと思う。寝食を忘れて、一生打ち込める分野があることは幸せであるし、その幸せを周囲の人にも分かち合っていくことができればなお良い。今は、日本の国がこのような才能を求めている。方向さえ間違わなければ。若い人にはますます期待したい。

日本経済新聞 (夕刊) 2020年(令和2年)4月13日

危険物製造危ういDIY

SNSでつながる化学マニア テロ組織近づく恐れ

化学好きな人放射線物質や高性能爆薬など危険な物自作する事件が頻発している。「DIY(日曜大工)感覚」で違法な危険物製造に手を染めるケースが多い。SNS(交流サイト)で情報を集め、インターネットで原材料を調達する点も共通だ。こうした化学愛好家がテロ組織に取り込まれる危険性を指摘する意見も出ている。

名古屋地裁は3月23日、放射性物質アメリカウムや爆薬の原料となる塩素酸カリウムを所持したとして、放射線障害防止法違反などの罪に

元大学生
SNSで情報交換
爆薬の製法を伝授
高校生
元会社員

高性能爆薬
3Dプリンター製の拳銃

高性能爆薬
放射性物質

爆薬の原料
放射性物質

問われた名古屋市の元会社員の男に執行猶予付きの有罪判決を言い渡した。判決によると、アメリカウムは海外のウェブサイトで買った爆感知器の部品を分解して取り出し、塩素酸カリウムを市販の塩化カリウムを電気分解して自作したとされる。「アメリカウムキタ」の投稿。男のアカウントとみられ、他にも爆感知器や動向を公開しており、化学への強い関心や自らがわかる書き込みが目立つ。「興味本位だった。危険がないよう実験した」。

放射線障害防止法違反罪などで有罪判決を受けた男のものとなる。SNSアカウントの投稿(一部匿名処理しています)

男は公判でこう述べている。地裁判決は、アメリカウムの容器を設け、爆薬の製造方法や実験結果を誇らしげに共有し、放射性物質の情報なども頻りにやりとりしていた。

実はアメリカウムを所持していた名古屋市の男は過去に自分で作った爆薬を誤って爆発させたという。2018年以降、類似する事件が相次いで発覚している。こうした事件の捜査では愛好家たちがSNSでつながり、原材料などの情報を交換している実態が判明した。愛知県は元大学生にも使われる高性能爆薬「TATP(過酸化セトロン)」を製造する事件が18年に発覚する。元大学生は、化学愛好

家たちとツイッターやLINE(ライン)で爆薬の製造方法や実験結果を誇らしげに共有し、放射性物質の情報なども頻りにやりとりしていた。

持っていた名古屋市の男は過去に自分で作った爆薬を誤って爆発させたという。SNSの解析では、東京都内の男子高校生が高性能爆薬「四硝酸エリスリトール(ETN)」を製造していたことも判明した。

高校生は元大学生からの情報で爆薬製造に成功し、捜査段階では「化学が好き」と供述。19年4月、警視庁に火薬類取締法違反(製造、所持)の疑いで書類送検された。ウラン売買に関与した疑いもあったという。